2014年2月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第445号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

管楽器愛好家のための季刊誌

楽器族。ブラストライブ

文・榎本孝一郎

みなさんはじめまして！私は「楽器族。ブラストライブ」という管楽器愛好家のための季刊誌をやっております榎本孝一郎と申します。ブラストライブBRASStribeっていう言葉は、辞書を引いても出てきません。これ、造語です。BRASSは「真鍮」ですが、金管楽器を意味します。ブラスバンドのブラスですね。ここでは広く「楽器全般」という意味にしています。TRIBEというのは「種族」という意味。あわせてBRASStirbeすなわち「楽器族」。それが我々の雑誌の名前です。楽器にもいろいろありますが、我々は主に「管楽器」を中心に記事を作っています。

管楽器ってのはトランペットとかサックスとかいう、あれです。そう、最近ではテレビでもとりあげられるようになりましたが、吹奏楽とかで使われているアレです。みなさんのなかにも「昔やってたよ！」とか「今うちの子が夢中なの！」という方がいらっしゃるかもしれませんね。

我が国はアメリカに次ぐ管楽器王国

なにしろ実は我が国はアメリカに次ぐ管楽器王国なのです。全国の小中学校高校大学の全吹奏楽部ならびに社会人吹奏楽団をあわせた数は1万5千団体近く（全日本吹奏楽連盟調べ）。少子高齢化が進むなかで学校のクラブ活動はどんどん縮小されていますが、そういう流れに反するかのように学校の吹奏楽部は「微増」…少なくとも先述の「連盟」に加盟する団体はまだ減ることはないのです。これだけ活発な学校吹奏楽活動は、1970年の大阪万博のあたりから始まりました。全国の学校教育の課外活動に吹奏楽が取り入れられるようになったのです（アメリカでは義務教育の中で管楽器が教えられています）。

「ブラストライブ vol.29」プロスコープ発行
／定価：本体952円＋税／A4判・128頁

全国に1万5千の団体があり、そのうちの一般団体以外、つまり小中高大はその三分の二を占めます。ざっくり1万団体。学校吹奏楽の場合、それぞれの団体の平均的な構成人員の数は、少なく見積もって25人くらいです。つまりざっと25万人。先述のようにこういった吹奏楽活動は70年代から続いているわけで、単純計算すれば40年間にわたって毎年25万人の「楽器族」たちが続々と生み出されてきたわけです。話半分だとしても結構な数字になりますよね。

これまで、多くの「楽器族」たちは、社会に出ると楽器を捨ててしまうのが「常」でした。だって社会に出たら仕事も遊びも忙しくて、大勢が日程を調整して集まらないと練習にならない「吹奏楽」や「ビッグバンド」にはなかなかついていけなくなるんです。だから「大人の楽器族」なんて「いないも同然」だったのです。かつては。ところが今は、ちょっと街を歩いていても色とりどりのサックスケースを手にしたおじさんやお姉さんを見ない日はありません。彼らこそが本誌の狙う「楽器族」なのです。

「楽器族」たちが街にあふれてきた

これらの「楽器族」たちが街にあふれてきたのは、映画「スウィングガールズ」や「管楽器カラオケ」や「ブラスト！」（ステージで楽器吹いて踊る）などがやってきた2000年代初頭の話でした。バブルがはじけて以来どの業界も元気ない状態が続いていたのですが、ちょっとだけ楽器業界だけが「右下がり」から耐えられたのは、特に映画「スウィングガールズ」の影響が強かった、と聞いています。

私が、本誌の原案を思いついたのもちょうどそのころでした。

で、さまざまな業種と語り合ってごにょごにょつくりあげた本誌の原案はそれなりに業界受けしたのですが、映画「スウィングガールズ」をネタにした特別号が売り切れ状態になっても増刷せず、それ以外にもいろいろあって（ここしゃべれないのです。ご容赦）会社を辞めてその原案をもって独立。さる（猿ではありません）別の出版社に紹介していただき、その原案を実体化させました。つまりここで「楽器族。ブラストライブ」が誕生したのです。時に2006年。映画「スウィングガールズ」ブームから2年後でした。

きわどいところでした。当時まだ管楽器系の雑誌は少なかったのですが、私が独立した直後に別の大手から似たようなアイディアの雑誌が登場、にわかに業界が「活気」づきました。広告の取りあい、的な話になったのですね。しかしこのご時世、紙媒体はかつての「信仰」を失いました。本誌に限らずどの雑誌も「広告」の問題には苦慮する時代になりました。

しかし読者である「楽器族」にはそのことは関係ありません。楽器族はオーディオ族（流れでそう呼びますが）に比べて「広告」への信仰が低い、というか、特に管楽器は自分の体を「鳴らす」ので、誰かが「いい」といっても自分には「あわない」という場合が多いのです。それに、楽器がうまく吹けるようになっても、ひとりで吹いてもつまらない。社会人になったら「仕事の都合をつけて定期的にバンドに入って遊ぶ」のが難しくなります。そこで「楽器教室に通ってひとりで吹く」とかあるいは「暇を見つけてカラオケボックスで吹く」などの行為に走るようになります。

「さびしい気持ち」を励ます雑誌

でもそれって、さびしいんですよね。やっぱ、一人で吹くのはさびしいし、つまらない。そこで「楽器族。ブラストライブ」なのです。本誌はそういう「ひとりじゃつまらん」という楽器族たちの「さびしい気持ち」を励ますために生まれました。なにより私自身がそうだからかもしれないけど、ウマけりゃ引く手あまたで、「さびしい」ことなんかありゃしない。だけど9割は「へたっぴ」で、残りの1割だって「おれはウマイ」なんて思ってないんです。

つまりたいていの楽器族は「うまくなりたい」「仲間を探したい」と思っているのです。だから本誌は存在する。そう思っています。もちろんまだまだ未熟ですが、おかげさまで今回から地方・小出版流通センター様の力をお借りして書店様に流通できるようになりました。感謝の言葉もありません。

有為転変あって現在では「プロスコープ」というデジタルメディア制作会社の一員になり、デジタルメディアを併用する雑誌として楽器族たちを刺激していくつもりです。プロスコープも造語で「未来を見る」という意味をもっています。世の中にゴマンどころか今も数十万は潜在していると思われる「未来」の楽器族たちを「見る」ために、いろんな企画を考えていこうと思っています。

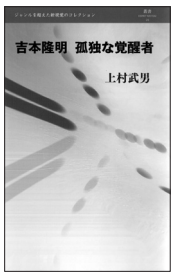
＊

（えのもと　こういちろう／「ブラストライブ」編集長）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『吉本隆明　孤独な覚醒者』●上村武男著



没後1年、吉本隆明(1924-2012、詩人、思想家)に強い関心を持つ人は今なお多い。関連本の出版も続き、本書もその一冊である。著者上村は20歳で吉本の作品に出合い、「深い感嘆とおおきな感化」を受ける。早くも25歳で「吉本隆明に関する手紙」を書きあげ(1968年)、吉本についてのまとまった論考としては最も早かったという。

本書は、「吉本さんとわたしとのあいだの、ほんの束の間の対話集みたいなもの」で、吉本あるいは吉本作品とのきわめて私的で濃密なかかわりを漂わせており、著者吉本論の集大成となっている。その一方で、吉本および著者の伝記的な側面も見られて面白い。なお、吉本講演「人間にとって思想とは何か」と、その討論を収載する。

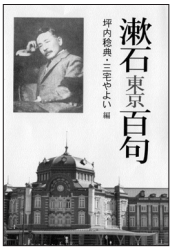
◆ 2415円・四六判・332頁・**白地社**・京都・2013/11刊・ISBN9784893592699

『原発事故とこの国の教育』●武田邦彦著

東電福島第一原発事故で我が国の教育界は子どもたちを十分に守れなかった。この事実から見つめ直さなければならない。こうした問題意識から事故の全容を整理し、事故が教育界に及ぼした影響と今後の在り方を検証する。大切なことは、事故で何が起こったのか、被曝等について法律はどのように決まっていたのかを正しく把握することであるとし、政治、科学、報道による誤った情報の発信や、法整備がされていたにも拘わらず被曝回避が機能しなかったことを指摘。原発事故という困難な問題に対処するには、科学的で冷静な判断力を涵養する教育が必要であり、それには現場の教師に期待するところが大きいと述べる。

◆ 1260円・四六判・269頁・**ななみ書房**・神奈川・2013/11刊・ISBN9784903355344

『漱石・東京百句』●坪内稔典・三宅やよい編



既刊の『漱石・松山百句』『漱石・熊本百句』に続く東京編。漱石の東京在住時代の前期は、第一高等学校時代に子規宛書簡に初めて書き留めた句（帰ろふと泣かずに笑へ時鳥）を始まりとして、松山に赴任するまで。後期は英国滞在を経て帰国し、小説家として生涯を終えるまで、となる。それぞれの句には、坪内稔典、三宅やよい、ねじめ正一ほか現代俳人詩人の各氏が鑑賞文を付し、句の背景や語句の意味等を解説し、読者を導いてくれる。合間には現代俳人たちの漱石にまつわるエッセイが挟みこまれている。巻末の年譜は、漱石の句作に焦点をあてたもので、漱石はその生涯において俳句を作る楽しみを手放すことがなかったとわかる。

◆840円・文庫判・133頁・**創風社出版**・愛媛・2013/12刊・ISBN9784860371999

『勧請縄　ー個性豊かな村境の魔よけ』●西村泰郎著

勧請縄とは、注連縄に似た大縄を、村の出入り口の街道を横切るように両側の大木に吊るした村境の儀礼で、悪霊や疫病除けの結界として吊ったのが始まりだと言われている。年頭行事として、地区により1月から3月頃にかけて村中総出で縄をなって吊り上げる。現在も近畿地方を中心に多く確認できるが、本書は滋賀県内の勧請縄をカメラで撮り集めた写真集であるとともに、形状や分布等々の詳細を精査した勧請縄百科となっている。一つとして同じ形状がないとも言われる個性的な勧請縄を、ほぼ滋賀県全域に渡って網羅し、時期や場所、形状までを一覧化、統計資料としてグラフ化している。著者は在野の研究者である。

◆2520円・210mm×185mm判・125頁・**サンライズ出版**・滋賀・20131210刊・ISBN9784883255207

『橘孝三郎の農本主義と超国家主義　ーもう一つの近代』●菅谷務著

一高中退ののち農民として生きた思想家、橘孝三郎。その思想は戦前期における下からのファシズム思想として、北一輝・大川周明などと共に語られることが多かった。橘の天皇制や日本の中国侵出に対する見方などに批判されるべき点は確かにある。しかし本書は、そういった点にも配慮しつつ、橘の思想からラディカルな面をすくいとろうと試みている。特にその農本主義や共生の思想には見るべきものが多い。自然との調和、生産本位でなく生きがいや喜びに基づく労働観など、橘の構想した社会像は、資本主義社会の行き詰まりを感じさせる現代においてこそ、もうひとつの社会への契機を孕んだものとして興味深い。

◆3150円・A5判・224頁・**岩田書院**・東京・2013/11刊・9784872948332

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2013年12月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**faura**　42　ナチュラリー編　A4　80頁　1000円　ナチュラリー［北海道］978-4-503-20059-4 13/12

◆**あおもり草子**　No.220　佐藤　史隆編　A4　48頁　600円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-20043-3　13/12

◆**榛名団**　9号　富沢　智編　A5　96頁　601円　榛名まほろば出版［群馬］978-4-503-20071-6　13/12

◆**GREEN REPORT**　408　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-40-4　13/12

◆**響き合う街で**　No.67　やどかり出版編　B5　62頁　1260円　やどかり出版［埼玉］978-4-503-20056-3　13/11

◆**ママともぷらす　東京ベイ・千葉版**　No.56　市川　恵美子編　A5　88頁　600円　明光企画［千葉］978-4-503-20067-9　13/12

◆**子どもと読書**　403号　親子読書地域文庫全国連絡会編　A5　40頁　550円　親子読書地域文庫全国連絡会

売行良好書

期間：2013年12月16日～2014年1月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『つるかめ食堂』1470円・ベターホーム出版局　(2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(3)『銀の画鋲』1365円・書肆侃侃房　(4)『図書館がまちを変える』1470円・東京創作出版　(5)『フーリエの冒険　新装改訂版』3675円・言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ　(6)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(7)『罠師　片桐邦雄』1680円・鉱脈社　(8)『草はひとりでに生える』1890円・ＯＥＪ　Ｂｏｏｋｓ　(9)『柳家喜多八膝栗毛』1680円・まむかいブックスギャラリー　(10)『万象の訪れ』2520円・弦書房　(11)『光さんの贈りもの』3675円・大原哲夫編集室　(12)『アルコール依存症を知る！改訂版』1050円・アスク・ヒューマン・ケア　(13)『昭和の貌』2310円・弦書房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※税込み価格

(1)『昭和プロレスマガジン　３１』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『おすすめ文庫王国　２０１４』798円・本の雑誌社　(3)『東京かわら版　１月号』420円・東京かわら版　(4)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(5)『フリースタイル　２５』932円・フリースタイル　(6)『捨てる女』1680円・本の雑誌社　(7)『西丹沢登山詳細図』900円・吉備人出版　(8)『飲んだビールが５万本！』1470円・本の雑誌社　(9)『実戦に強くなるガチンコ詰将棋』1155円・双峰社　(10)『本の花』1995円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『戦国の城は民衆の危機を救った』1575円・揺籃社　(2)『高尾山・景信山　陣馬山　登山詳細図』800円・吉備人出版　(3)『基地で働く』・2000・円・沖縄タイムス社　(4)『奥多摩東部登山詳細図　全８８コース』800円・吉備人出版　(5)『埼玉の地名　新座・志木・朝霞・和光編』1365円・さきたま出版会　(6)『あそこ』1785円・書肆侃侃房　(7)『万象の訪れ』2520円・弦書房　(8)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社　(9)『出雲の山城』1890円・ハーベスト出版　(10)『ＴＨＥ　ＢＵＲＧＥＲ　ＭＡＰ　首都圏版』1300円・幹書房

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

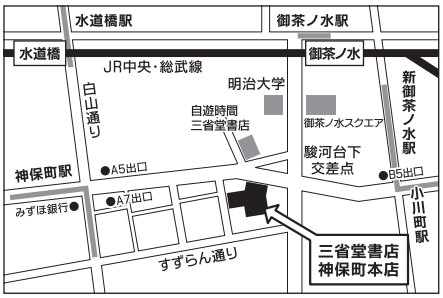
トピックス ―― ★★★

▼先日、その出版活動が評価され、梓会出版文化賞特別賞を受賞した**赤々舎**から、「小野啓写真集『NEW TEXT』作って届けるためのプロジェクト」を経て、ついにこの『**NEW TEXT**』が一般販売となりました。詳細は赤々舎ホームページに譲りますが、そのプロジェクトはブックファンドのような形態をとっていて、配当金の代わりに１冊が予約者に、そしてもう一冊が予約者が希望する図書館や個人に寄贈される仕組みです。出版の形のひとつとしてユニークな試みかもしれません。
http://akaaka.com/newtext-project/overview.html

▼昨年２月～３月にかけて初めて栃木県で『**全国新聞社ふるさとブックフェア**』を開催した喜久屋書店 宇都宮店にて、2014年２月８日（金）～３月31日（月）の期間、再度、同ブックフェアが開催されることとなりました。「喜久屋書店 宇都宮店」は、950坪と栃木県内最大の広さと約70万冊の蔵書数を誇ります。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。